

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	就職を含めた進路活動を始める前の準備完了を目標とする。 ・就職を含め進路に対する考え方の確立 ・履歴書ECなどの各種書類を書けるようになる ・就職面接時の基本的な動作、マナーを身に付ける ・就職活動をする際や社会人としての電話対応やメールの書き方などを身に付ける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	就職活動の心構え	導入・フォーム使い方・働く意義	
	2	企業が求める人材とは	会社選びの価値観・社会人基礎力	
	3	就職活動の流れ・目標	A&D就職活動のルール・ライフデザイン	
	4	自己分析で考えるポイント	過去・現在の自分史(基礎編・進化編)	
	5	職業を知る・情報収集	情報収集・ネット求人閲覧	
	6	自己PR	業界、会社に沿う自己PR作成	
	7	志望動機	業界、会社に沿う志望動機作成	
	8	電子メール	電子メール・資料請求	
	9	求人票の見方	求人票の見方・インターンシップ	
	10	Excel実習	就職に役立つExcelの活用	
	11	業界研究 1	志望する会社の選定・情報収集	
	12	業界研究 2	志望する会社の選定・情報収集	
	13	業界研究 3	志望する会社の選定・情報収集	
	14	期末試験	一般常識試験	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	28時間		週時間数	1時間	
学習到達目標	就職を含めた進路活動を始める前の準備完了を目標とする。 ・就職を含め進路に対する考え方の確立 ・履歴書ECなどの各種書類を書けるようになる ・就職面接時の基本的な動作、マナーを身に付ける ・就職活動をする際や社会人としての電話対応やメールの書き方などを身に付ける				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	履歴書の書き方	エントリーシート・履歴書・添え状		
	2	制作書類 1	業界、会社に沿う自己PRの作成		
	3	制作書類 2	業界、会社に沿う志望動機の作成		
	4	企業訪問	企業訪問		
	5	面接試験対策	入退室・面接形式・受け答え		
	6	就職試験	よくある質問・圧迫面接		
	7	作文・論文	筆記試験対策・適性検査・作文		
	8	制作書類 3	業界、会社に沿う書類の作成		
	9	制作書類 4	業界、会社に沿う書類の作成		
	10	制作書類 5	業界、会社に沿う書類の作成		
	11	面接対策 1	業界、会社に沿う面接対応の練習		
	12	面接対策 2	業界、会社に沿う面接対応の練習		
	13	面接対策 3	業界、会社に沿う面接対応の練習		
	14	期末試験	履歴書の修正・提出		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I	指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	各担当による		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊	
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	56時間		週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	各担当による				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	メディアリテラシー I		指導担当者名	松岡 純代	
実務経験	制作会社勤務、フリーカメラマンとして写真撮影業務に11年間従事し、現在も活躍中			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、動画・映像クリエイト科 1年、YouTuberクリエイト科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	28時間		週時間数	1時間	
学習到達目標	<p>前期のポイント(以下の力を身に付ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル ・メディアに対する自己コントロール力 ・情報をうのみにせず主体的批判的に受け取る力 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具				
授業外学習の方法	・メディアに触れること				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	授業の説明	進め方、概要		
	2	メディアリテラシーを考える	メディアリテラシーの意味		
	3	メディアを知る	メディアの種類		
	4	SNSを知る	SNSを使用する上での注意点		
	5	SNSトラブル	SNSトラブルの対処法、ポイント		
	6	ネット犯罪	加害者・被害者にならないために①		
	7	ネットストーカー	加害者・被害者にならないために②		
	8	アンガーマネジメント	自己マインドのコントロールについて		
	9	ネットニュース	ネットニュースの仕組み		
	10	フェイクニュース	文章の編集、画像・動画の編集、切り取りについて		
	11	ネット広告	ネット広告の仕組み		
	12	期末試験準備	試験範囲発表		
	13	前期期末試験	期末試験		
	14	前期振り返り	前期振り返り		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	メディアリテラシー I	指導担当者名	松岡 純代
実務経験	制作会社勤務、フリーカメラマンとして写真撮影業務に11年間従事し、現在も活躍中		実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、動画・映像クリエイト科 1年、YouTuberクリエイト科 2年</small>
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	後期のポイント(以下の力を身に付ける) ・情報発信能力 ・インターネット操作活用能力		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具		
授業外学習の方法	・メディアに触れること		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	SNSマーケティング	SNSマーケティングの説明
	2	SNSマーケティング	バズらせるための考察
	3	情報発信をしてみよう	記事を書くコツと注意点
	4	情報発信をしてみよう	記事を読んで分析しよう
	5	SNSを分析してみよう	アカウント分析
	6	SNSを分析してみよう	インサイト
	7	SNSを分析してみよう	マーケティング
	8	JARO	景品表示法について
	9	JARO	優良誤認
	10	JARO	有利誤認
	11	JARO	薬機法
	12	期末試験準備	試験範囲発表
	13	後期期末試験	期末試験
	14	年間の講評	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習 I		指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	フリーの映像編集者として2年の経験がある。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、動画・映像クリエイト科 1年、YouTubeクリエイト科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・イラストレーターの使用技術の習得 ・イラストレーター検定初級を取得する(12月実施予定) 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, IllustratorクイックマスターCC(Win/Mac) 対応			
授業外学習 の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/インターフェース・ツール・パネル	
	2	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/インターフェース・ツール・パネル	
	3	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/アートワーク・アートボードナビゲーター・ガイド・環境設定	
	4	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/アートワーク・アートボードナビゲーター・ガイド・環境設定	
	5	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/オブジェクトの設定と描画	
	6	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/オブジェクトの設定と描画	
	7	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/編集操作(CP・前後関係・グループ化・移動)	
	8	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ	
	9	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ	
	10	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ	
	11	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ	
	12	模擬試験		
	13	前期期末試験		
	14	期末試験フィードバック		
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習 I		指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	フリーの映像編集者として2年の経験がある。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、動画・映像クリエイト科 1年、YouTubeクリエイト科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・イラストレーターの使用技術の習得 ・イラストレーター検定初級を取得する(12月実施予定) 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, IllustratorクイックマスターCC(Win/Mac)対応			
授業外学習 の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/文字の作成・文字関連の機能	
	2	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/文字の作成・文字関連の機能	
	3	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/パスの基本的な描画と編集	
	4	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/パスの基本的な描画と編集	
	5	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/線とアピアランス	
	6	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/線とアピアランス	
	7	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/レイアウトの補助機能	
	8	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/レイアウトの補助機能	
	9	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/グラデーション・スウォッチ・パターン	
	10	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/グラデーション・スウォッチ・パター	
	11	模擬問題	スタンダード模擬問題-1 解説	
	12	模擬問題	スタンダード模擬問題-2 解説	
	13	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	14	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	DTP概論 I		指導担当者名	石井 祐一
実務経験	印刷会社社長として現在も活躍中、16年間従事している			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	DTPについて基礎知識の習得			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	新詳説 DTP基礎[改訂四版]			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	DTPの概要	DTPとは? DTPの歴史	
	2	DTPの概要	DTPの流れと職種 DTPに必要な知識	
	3	DTPの概要	DTPデータの活用	
	4	印刷の基礎知識	印刷物ができるまで 印刷方式の種類 カラー印刷のしくみと印刷線数	
	5	印刷の基礎知識	印刷用紙 面付けと折り加工 製本	
	6	印刷の基礎知識	特殊印刷と特殊加工 GTPとDDCP オンデマンド印刷	
	7	DTPに必要なもの	DTPシステム ハードウェア(①パソコン本体②インターフェースとディスプレイ)	
	8	DTPに必要なもの	ハードウェア(③入力機器とプリンター④メディアとネットワーク)ソフトウェア(①OS)	
	9	DTPに必要なもの	ソフトウェア(②グラフィック③ページレイアウトとPDF④フォントとその他のソフト)	
	10	グラフィックデータ	グラフィックデータの種類 画像解像度とビット深度 写真原稿とスキャニング	
	11	グラフィックデータ	画像データの修正Photoshopの活用① 画像データの調整Photoshopの活用② 画像データの加工Photoshopの活用③	
	12	グラフィックデータ	ベクトル画像のしくみIllustratorの活用① ロゴや図版などの作成Illustratorの活用② ファイル形式と画像リソースの活用	
	13	前期期末試験	期末試験	
	14	前期の振り返り	前期振り返り	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	DTP概論 I		指導担当者名	石井祐一
実務経験	印刷会社社長として現在も活躍中、16年間従事している			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	DTPについて基礎知識の習得			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	新詳説 DTP基礎[改訂四版]			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	文字組とフォント	テキストデータ 文字の属性	
	2	文字組とフォント	文字詰めと文字の変形 段落の設定	
	3	文字組とフォント	デジタルフォント(①PostScript/TrueType②OpenType)	
	4	文字組とフォント	文字コードと文字セット フォントの管理	
	5	色の基本と印刷	色の原理 色の属性とトーン 特色	
	6	色の基本と印刷	トラッピングとリッチブラック カラーマネジメント	
	7	組版とレイアウトの基本	トンボと裁ち落とし ペラもののレイアウト ページのづくり	
	8	組版とレイアウトの基本	多ページもののフォーマットの作成 多ページもののレイアウト	
	9	組版とレイアウトの基本	スタイル機能の活用 入稿データのチェック	
	10	PDFと電子書籍	PDFとは 閲覧用PDF	
	11	PDFと電子書籍	入稿用PDF 電子書籍①フォーマットと端末(リーダー)	
	12	PDFと電子書籍	電子書籍(②EPUB③PDFとアプリ型)	
	13	後期期末試験	期末試験	
	14	後期の振り返り	後期振り返り	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論 I	指導担当者名	志村 早織
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>デザイン学科1年、デザイン学科2年、デザイン学科3年、デザイン学科4年、デザイン学科5年、デザイン学科6年、デザイン学科7年、デザイン学科8年、デザイン学科9年、デザイン学科10年、デザイン学科11年、デザイン学科12年</small>
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	色彩概論テキスト		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習
	2	確認テスト番号	教科書、問題集PCCS
	3	確認テスト色のはたらきについて	教科書、問題集色のはたらき、色とイメージ
	4	確認テスト光と色	教科書、問題集色はなぜ見えるのか、目のしくみ
	5	確認テスト混色	教科書、問題集照明と色の見え方、加法混色、減法混色
	6	確認テスト色の分類と三属性	教科書、問題集色の三属性、等色相面
	7	確認テストPCCS色相	教科書、問題集色相、明度、彩度、トーンのイメージ
	8	確認テストトーン記号	教科書、問題集色相とトーンによる色の表示方法
	9	確認テスト慣用色名①	教科書、問題集慣用句名、暖色と寒色
	10	確認テスト色彩心理	教科書、問題集進出色と後退色、膨張色と収縮色
	11	確認テスト色対比と錯視	教科書、問題集色対比、同化効果、色陰現象、色の錯視
	12	確認テスト色彩調和	教科書、問題集配色、色相から配色を考える
	13	確認テスト色彩効果	教科書、問題集配色技法、色彩と構成
	14	レポート作成	まとめ
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論 I	指導担当者名	志村 早織
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>デザイン学科1年、デザイン学科2年、デザイン学科3年、デザイン学科4年、デザイン学科5年、デザイン学科6年、デザイン学科7年、デザイン学科8年、デザイン学科9年、デザイン学科10年、デザイン学科11年、デザイン学科12年</small>
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	色彩概論テキスト		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	確認テスト授業説明	教科書、問題集
	2	確認テスト色彩と生活	教科書、問題集生活環境と色彩、生活環境とカラーコーディネーション
	3	確認テストファッションと色彩	教科書、問題集 ファッションとは、ファッションコーディネートにおける色彩、基本的なカラーコーディネート
	4	確認テストインテリアと色彩	教科書、問題集 インテリアとは、住宅インテリアの色彩
	5	確認テストインテリアのカラーコーディネーション	教科書、問題集 インテリアのカラーコーディネーション、インテリアにおける色の心理的効果
	6	確認テストコーポレートカラー	教科書、問題集 インテリアの配色、インテリアにおける色彩検討、コーポレートカラー
	7	確認テスト慣用色名②	教科書、問題集慣用句名説明
	8	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説
	9	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説
	10	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説
	11	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説
	12	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説
	13	色彩検定2級についての説明	次年度概要説明
	14	レポート作成	まとめ
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画配信プランニング演習 I	指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	フリーの映像編集者として2年の経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、YouTuberクリエイター科、動画映像クリエイター科 1年</small>
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信における基礎的な知識の習得 ・発想力、プランニング力の向上 ・基本的な動画編集力の取得 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	・Machintosh PC ・Adobe Premiere Pro		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で動画やインフルエンサーのリサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	企画の基礎	企画(プランニング)の必要性
	3	企画の基礎	企画書の基礎的な制作方法
	4	企画の基礎	コンセプトや制作意図について
	5	企画の基礎	設定したターゲットにあった規格の重要性
	6	企画の基礎	現在の流行、需要のリサーチ(年齢、性別指定)
	7	企画の基礎	自分と他人の価値観のギャップ
	8	企画の基礎	現状の基本的な企画スタンス(既存+α or 新しいもの)
	9	企画の基礎	統一性を持たせる意味(ブランディング)
	10	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作
	11	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作
	12	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作
	13	前期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画配信プランニング演習 I	指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	フリーの映像編集者として2年の経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、YouTuberクリエイト科、動画映像クリエイト科 1年</small>
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信における基礎的な知識の習得 ・発想力、プランニング力の向上 ・基本的な動画編集力の取得 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Machintosh PC ・Adobe Premiere Pro		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で動画やインフルエンサーのリサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の種類の説明
	2	映像について	興味を持つきっかけ(サムネイル等)
	3	映像について	人間の集中力の持続と映像の関連性
	4	映像についての確認	学習した映像の知識の確認と企画への落とし込む重要性
	5	Premiere proの使い方	データの作成方法と書き出し
	6	Premiere proの使い方	カット、文字入れ、音入れ
	7	Premiere proの使い方	機能の使用方法(基本的なエフェクト)
	8	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	9	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	10	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	11	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	12	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	13	後期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	後期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習 I		指導担当者名	丸山悦代
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品数を増やす ・就職活動用のポートフォリオを制作する 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、Adobeソフト、プリンター、資料配布			
授業外学習の方法	制作物の整理と管理			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	ポートフォリオ解説	ポートフォリオの説明	
	2	レイアウトの基礎	名刺を制作、イラストレーターの使い方	
	3	レイアウトの基礎	余白、整頓、行間	
	4	レイアウトの基礎	フォーマットをトレースする	
	5	レイアウトの基礎	フォーマットをトレースする	
	6	作品制作	ロゴマークの解説	
	7	作品制作	ロゴマーク制作	
	8	作品制作	課題発表、発表	
	9	レイアウトの基礎	就活用プロフィールを作る	
	10	レイアウトの基礎	オリジナルフォーマットを作る	
	11	作品制作	試験課題発表	
	12	期末試験準備	課題制作	
	13	期末試験	課題提出、プレゼンテーション	
	14	期末試験フィードバック	課題とプレゼンテーションについて講評	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習 I	指導担当者名	丸山悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品数を増やす ・就職活動用のポートフォリオを制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Machintosh PC、Adobeソフト、資料配布		
授業外学習の方法	制作物の整理と管理		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	ポートフォリオ解説	就活用ポートフォリオ制作とは
	2	就活用ポートフォリオ解説・制作	カテゴリ分けについて
	3	就活用ポートフォリオ解説・制作	レイアウトについて
	4	就活用ポートフォリオ解説・制作	作品の入れ方について
	5	就活用ポートフォリオ解説・制作	フォント・文章について
	6	就活用ポートフォリオ解説・制作	就活用とセルフアピールの違いについて
	7	中間審査	就活用ポートフォリオの提出、進捗確認
	8	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 カテゴリ分けの確認
	9	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 レイアウトの確認
	10	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 バランスの確認
	11	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 レイアウトと整頓の確認
	12	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 誤字脱字の確認
	13	期末試験	就活用ポートフォリオの提出、プレゼンテーション
	14	期末試験フィードバック	課題とプレゼンテーションの講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究 I	指導担当者名	丸山 悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン、グラフィックデザインマスター科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	デザイン業界の現状を理解し、求められているスキルをアピールするポートフォリオを制作する。また、企業連携課題に取り組み自身のアピール素材とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	PC、タブレット、プロジェクトペーパー		
授業外学習の方法	デザイン業界についてのリサーチをしておく		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	・制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する
	3	A&D 大学校キャラクタープレゼン	国際A&D 大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D 大学校キャラクタープレゼン 大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つてキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼン インスタプロモーションについて	お得意先へ提出可能なデザインにおいては、修正対応してもらい提出までにブラッシュアップを行う。インスタプロモーション・POPの考え方。制作を始めるに当たり必要な情報の落とし込み
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作(ハロウィン)	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラレを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究 I	指導担当者名	丸山 悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン、グラフィックデザインマスター科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	デザイン業界の現状を理解し、求められているスキルをアピールするポートフォリオを制作する。また、企業連携課題に取り組み自身のアピール素材とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	PC、タブレット、プロジェクトペーパー		
授業外学習の方法	デザイン業界についてのリサーチしておく		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	・制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D 大学校キャラクタープレゼン	国際A&D 大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D 大学校キャラクタープレゼン 大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つてキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼン インスタプロモーションについて	お得意先へ提出可能なデザインにおいては、修正対応してもらい提出までにブラッシュアップを行う インスタプロモーション・POPの考え方。制作を始めるに当たり必要な情報の落とし込み
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作(ハロウィン)	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラレを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	プロダクション実習 I		指導担当者名	ヤブキ
実務経験	フリーのイラストレーターとしてキャラクターデザイン、デザイン制作など10年以上従事			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン、グラフィックデザインマスター科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	作品を売り込むためのルート検索、また売り込み方法の学習			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	各種画材			
授業外学習の方法	アートに触れる機会を多く持つ			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション	
	2	ヴィジュアルマーケティングとは	ヴィジュアルマーケティング実習	
	3	ヴィジュアルマーケティングについて	ヴィジュアルマーケティング実習	
	4	ヴィジュアルマーケティングについて	ヴィジュアルマーケティング実習	
	5	ストックフォト とは	ストックフォト解説 スtockフォトのメリット マーケティング方法検索・発表	
	6	ストックフォト とは	ストックフォト解説 スtockフォトのメリット マーケティング方法検索・発表	
	7	Tシャツでのヴィジュアルマーケティング	Tシャツのデザインに採用時のメリット 受けやすいデザインとは? マーケティング方法検索・発表	
	8	プレゼン	プレゼン	
	9	LINEスタンプ	説明	
	10	LINEスタンプ	キャラクターとバリエーションの設定	
	11	LINEスタンプ	制作	
	12	LINEスタンプ	制作	
	13	LINEスタンプ	制作	
	14	LINEスタンプ	完成、発表	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	プロダクション実習 I		指導担当者名	ヤブキ
実務経験	フリーのイラストレーターとしてキャラクターデザイン、デザイン制作など10年以上従事			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン、グラフィックデザインマスター科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	作品を売り込むためのルート検索、また売り込み方法の学習			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	各種画材			
授業外学習の方法	アートに触れる機会を多く持つ			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	Tシャツでのヴィジュアルマーケティング	CDやレコードに写真が採用されるメリット アートディレクターにマーケティングする場合の作品形態とはマーケティング方法検索・発表	
	2	音楽を通してのヴィジュアルマーケティング	CDやレコードに写真が採用されるメリット アートディレクターにマーケティングする場合の作品形態とはマーケティング方法検索・発表	
	3	音楽を通してのヴィジュアルマーケティング	CDやレコードに写真が採用されるメリット アートディレクターにマーケティングする場合の作品形態とはマーケティング方法検索・発表	
	4	後期末課題説明	CDやレコードに写真が採用されるメリット アートディレクターにマーケティングする場合の作品形態とはマーケティング方法検索・発表	
	5	課題制作1	テーマ別個人制作	
	6	課題制作2	テーマ別個人制作	
	7	課題提出・プレゼン	プレゼン資料作成、準備	
	8	提出・プレゼン	発表、講評	
	9	作品制作(コンペ出品)	課題:実際に授業中作品持参でにマーケティングをしてもらう(作品は過去のものでも可但し前期に学んだいづれから課題を選択)	
	10	作品制作(コンペ出品)	課題:実際に授業中作品持参でにマーケティングをしてもらう(作品は過去のものでも可但し前期に学んだいづれから課題を選択)	
	11	作品制作(コンペ出品)	課題:実際に授業中作品持参でにマーケティングをしてもらう(作品は過去のものでも可但し前期に学んだいづれから課題を選択)	
	12	インスタ映えを考える	インスタ映えする写真撮影会	
	13	チラシ、ポスター	制作	
	14	チラシ、ポスター	発表	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習 I		指導担当者名	遠藤 孝行
実務経験	WEB制作会社社長として、5年以上の実務経験を持っている			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン、グラフィックデザインマスター科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得 ・CSSの知識と技術の習得 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	WEBサイトの基本	WEBサイトの仕組み、テキストエディターの導入	
	2	HTMLの基本	HTMLとは、HTMLファイルの骨組み	
	3	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	4	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	5	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	6	CSSの基本	CSSとは、CSSファイルの書き方	
	7	CSSの基本	文字の修飾	
	8	CSSの基本	要素、画像の装飾	
	9	CSSの基本	余白、レイアウトの調整	
	10	サイト制作:個人でのサイト構築	フルスクリーンのWEBサイトを制作する	
	11	サイト制作:個人でのサイト構築	2カラムのWEBサイトを制作する	
	12	サイト制作:個人でのサイト構築	タイル型のWEBサイトを制作する	
	13	前期期末試験	プレゼンテーション	
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習 I		指導担当者名	遠藤 孝行
実務経験	WEB制作会社社長として、5年以上の実務経験を持っている			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン、グラフィックデザインマスター科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得 ・CSSの知識と技術の習得 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	外部メディアの利用	フォーム、地図の設置	
	2	外部メディアの利用	SNSの外部利用	
	3	JavaScriptの基本	JavaScriptとは、JavaScriptの書き方	
	4	JavaScriptの基本	モーダルの表示	
	5	JavaScriptの基本	条件分岐	
	6	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	7	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	8	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	9	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	10	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	11	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	12	後期期末試験	制作発表	
	13	後期の振り返り	プレゼンテーション	
	14	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	コマーシャルフォト実習 I	指導担当者名	阿部 治
実務経験	写真スタジオにて撮影業務に3年間従事し、現在フリー活動をしている		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真とカメラの基礎知識の習得 ・スタジオ(撮影機材とライティング)の基礎知識と操作技術の習得 ・広告写真を制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<p>テキスト: 作品づくりが上達する RAW現像読本 ～Lightroom CC/6で写真編集力アップ！</p> <p>撮影機材: 一眼レフカメラ、スポットライト、レフ版、三脚、露出計、レンズ各種、背景紙</p>		
授業外学習の方法	<p>広告や雑誌などを見て研究、自主的に撮影の練習をする、夏休みの課題撮影</p>		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	写真の基礎知識	写真とは何か 広告写真の解説
	2	写真の基礎知識	光とボケについて
	3	写真の基礎知識	カメラの設定について
	4	撮影機材の基礎知識	一眼レフカメラの使用方法について実践解説
	5	撮影機材の基礎知識	ライティングについて実践解説
	6	撮影機材の基礎知識	スタジオ撮影機材の使用方法について実践解説
	7	広告写真課題制作	企画・コンセプトの設定
	8	広告写真課題制作	テスト撮影
	9	制作課題の中間審査	プレゼン・添削
	10	広告写真課題制作	テスト撮影
	11	広告写真課題制作	本番撮影
	12	広告写真課題制作	本番撮影
	13	前期期末試験	制作課題のプレゼン
	14	前期期末試験の振り返り	制作課題の講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	コマーシャルフォト実習 I	指導担当者名	阿部 治
実務経験	写真スタジオにて撮影業務に3年間従事し、現在フリー活動をしている		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真とカメラの基礎知識の習得 ・スタジオ(撮影機材とライティング)の基礎知識と操作技術の習得 ・広告写真を制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<p>テキスト: 作品づくりが上達する RAW現像読本 ～Lightroom CC/6で写真編集力アップ！</p> <p>撮影機材: 一眼レフカメラ、スポットライト、レフ版、三脚、露出計、レンズ各種、背景紙</p>		
授業外学習の方法	広告や雑誌などを見て研究、自主的に撮影の練習をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	夏休みの課題のプレゼン	プレゼン・添削
	2	広告写真課題制作	企画・コンセプトの設定(人物・物)
	3	広告写真課題制作	コンセプトに基づいたテスト撮影
	4	広告写真課題制作	構図のテスト撮影
	5	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	6	広告写真課題制作	本番撮影
	7	制作課題の中間審査	プレゼン・添削
	8	広告写真課題制作	コンセプトに基づいたテスト撮影
	9	広告写真課題制作	構図のテスト撮影
	10	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	11	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	12	広告写真課題制作	本番撮影
	13	前期期末試験	制作課題の提出
	14	前期期末試験の振り返り	制作課題の講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	撮影実習 I		指導担当者名	松岡 純代
実務経験	制作会社勤務、フリーカメラマンとして写真撮影業務に11年間従事し、現在も活躍中			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース、動画・映像クリエイト科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真とカメラの基礎知識の習得 ・風景や人物撮影技術の習得 ・コンペ、フォトコンテスト応募作品を制作する 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	<p>テキスト: 作品づくりが上達する RAW現像読本 ～Lightroom CC/6で写真編集力アップ！</p> <p>撮影機材: 一眼レフカメラ、スポットライト、レフ版、三脚、露出計、レンズ各種、背景紙</p>			
授業外学習 の方法	<p>広告や雑誌などを見て研究、自主的に撮影の練習をする、夏休みの課題撮影</p>			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	授業の説明	授業の概要、教室やカメラの扱い方について	
	2	自分の個性を知ろう①	好きな写真や写真家を調べる	
	3	自分の個性を知ろう②	好きな写真や写真家を発表する	
	4	商業写真とアート写真の違い	読む写真と感じる写真の違いを知る	
	5	商業写真とアート写真の違い	読む写真と感じる写真の違いを表現する	
	6	カメラの使い方について	カメラの構造や基本操作について	
	7	カメラを使って撮影をする	カメラで基本的な撮影	
	8	撮影機材の使い方	機材の扱い方の注意点・組み立て方を知る	
	9	撮影機材のセットを組む	機材の扱い方の注意点・組み立て方を覚える	
	10	写真作品を読む	アート写真について考える	
	11	写真集を読む	写真のストーリーの組み方について考える	
	12	期末試験準備	試験範囲発表	
	13	前期期末試験	期末試験	
	14	前期振り返り	前期振り返り	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	撮影実習 I	指導担当者名	松岡 純代
実務経験	制作会社勤務、フリーカメラマンとして写真撮影業務に11年間従事し、現在も活躍中		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース、動画・映像クリエイト科 1年</small>
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真とカメラの基礎知識の習得 ・風景や人物撮影技術の習得 ・コンペ、フォトコンテスト応募作品を制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<p>テキスト: 作品づくりが上達する RAW現像読本 ～Lightroom CC/6で写真編集力アップ！</p> <p>撮影機材: 一眼レフカメラ、スポットライト、レフ版、三脚、露出計、レンズ各種、背景紙</p>		
授業外学習の方法	<p>広告や雑誌などを見て研究、自主的に撮影の練習をする、夏休みの課題撮影</p>		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	構図を知ろう	写真の構図について知り撮影する
	2	ボケ味を知ろう	ぼかしの種類や方法について知り撮影する
	3	構図とボケ味を活かそう	構図とボケ味を活かした写真を撮る
	4	写真を編集しよう①	色補正について
	5	写真を編集しよう②	トリミングについて
	6	写真を編集しよう③	レタッチについて
	7	写真をみんなに見せよう	撮影した写真を発表し講評会をする
	8	写真で表現しよう①	コンセプトを考える
	9	写真で表現しよう②	撮影をする
	10	写真集を作ろう①	写真のレイアウトについて
	11	写真集を作ろう②	印刷製本する
	12	期末試験準備	試験範囲発表
	13	後期期末試験	期末試験
	14	年間の講評	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習	指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28 時間	週時間数	1週/28時間
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。		
評価方法 評価基準	筆記試験、出席率、模擬試験結果、検定結果による評価を行う 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト		
授業外学習 の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明
	2	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	1-1コミュニケーションを考える、2-1目的に即して聞く
	3	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2-2傾聴・質問する
	4	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する
	5	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる
	6	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く
	7	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-4表現伝達する
	8	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-1来客対応、1-2電話対応
	9	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性
	10	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-5チームコミュニケーション
	11	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-1接客営業、2-2クレーム対応
	12	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-3会議・取材・ヒアリング、2-4面接
	13	検定対策	模擬試験
	14	期末試験	検定本番
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I	指導担当者名	丸山 悦代	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	グラフィックデザイン、グラフィックデザインマスター科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:	
時間数	180 時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科で学んだ内容を活かした作品制作 ・テーマを掲げ対象者を意識した作品制作 ・自らの作品をアピールするプレゼンテーションが出来る 			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で1年間の集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」 			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習 の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても 可視化していく	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など	
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする	
	履修上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、プレゼンテーション機会を与えない ・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンテーションを実施そこで一定の評価があれば合格とする 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名		就職担当職員	
実務経験					実務経験:	
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科2、3年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:		
時間数	28時間		週時間数	1時間		
学習到達目標	<p>学生の進路にあわせた進路指導、就職活動指導(プロ希望、業界志望、その他企業志望)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路決定活動の状況に応じて問題解決が出来るようになる。 それぞれの希望進路に向けて準備から受験までを行う事が出来るようになる。 進路決定後はその職業で必要な知識と技術を身に付け、社会人としての準備を自ら出来るようになる。 					
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>					
使用教材	パソコン 作品集 SUCCESS					
授業外学習の方法	教科書の復習					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等			
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業内容説明			
	2	色々な働き方	働き方の種類、社会保障制度などを理解			
	3	プロ・フリーランスの定義	会社に属さない働き方を理解			
	4	ポートフォリオの役割	実績集(ポートフォリオ)制作の目的			
	5	個別指導①	個人の状況に合わせて個別指導			
	6	受験書類・自己PR	自己分析と自己PR			
	7	個別指導②	個人の状況に合わせて個別指導			
	8	進路選択の順番	会社説明会やインターネットを使用した求人検索			
	9	プロ・フリーランスの働き方	収入を得る方法、準備			
	10	ポートフォリオ添削	最新ポートフォリオ			
	11	個別指導③	個人の状況に合わせて個別指導			
	12	受験書類・志望動機	企業研究と志望動機			
	13	個別指導④	個人の状況に合わせて個別指導			
	14	期末試験	進路活動のレポート			
	15	期末試験フィードバック				
	16	期末試験フィードバック				
<p>作品制作</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>						

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名		就職担当職員	
実務経験				実務経験:		
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科2、3年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:		
時間数	28時間		週時間数	1時間		
学習到達目標	学生の進路にあわせた進路指導、就職活動指導 (プロ希望、業界志望、その他企業志望)					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材	パソコン 作品集 SUCCESS					
授業外学習の方法	教科書の復習。ニュースを見る。					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等			
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業内容説明			
	2	進路サポート案内	就職活動支援、利用方法の理解			
	3	個別指導⑤	個人の状況に合わせて個別指導			
	4	プロ・フリーランスになってから	各種手続きなどの紹介			
	5	個別指導⑥	個人の状況に合わせて個別指導			
	6	ポートフォリオ添削	受かるポートフォリオ、落ちるポートフォリオ			
	7	個別指導⑦	個人の状況に合わせて個別指導			
	8	受験書類・メール	お礼状やビジネスメール			
	9	個別指導⑧	個人の状況に合わせて個別指導			
	10	個別指導⑨	個人の状況に合わせて個別指導			
	11	個別指導⑩	個人の状況に合わせて個別指導			
	12	社会人準備①	社会人になる前の準備物や手続き			
	13	社会人準備②	社会人になる前の心構え、ビジネスマナー口			
	14	期末試験	進路活動のレポート			
	15	期末試験フィードバック				
	16	期末試験フィードバック				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅱ	指導担当者名	丸山悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>前期のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動用のポートフォリオを完成 (希望する職種によって作り分けが出来るようになる) ・商品制作と販売の経験と知識を得る ・実践的なデザイン制作を行う 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	MACPC、Adobeソフト、プリンター、その他		
授業外学習の方法	・作品のデータ管理とカテゴリ分けを実施する事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ポートフォリオ開設	ポートフォリオ制作のスケジュール説明
	2	就活先の合わせた作品制作①	個人面談、進捗状況確認
	3	就活先の合わせた作品制作②	個人面談、進捗状況確認
	4	就活先の合わせた作品制作③	個人面談、進捗状況確認
	5	就活用ポートフォリオ制作①	個別指導・添削
	6	就活用ポートフォリオ制作②	個別指導・添削
	7	就活用ポートフォリオ制作③	個別指導・添削
	8	就職活動用ポートフォリオ中間発表	課題進捗確認、プレゼンテーション
	9	就活用ポートフォリオ制作④	個別指導・添削
	10	就活用ポートフォリオ制作⑤	個別指導・添削
	11	就活用ポートフォリオ制作⑥	個別指導・添削
	12	期末試験準備(就活用ポートフォリオ制作⑦)	試験課題発表、課題制作
	13	期末試験(ポートフォリオプレゼン)	課題提出、プレゼンテーション
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅱ		指導担当者名	丸山悦代
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	後期のポイント ・自身の作品アピールが出来るポートフォリオを完成 ・商品制作と販売の経験と知識を得る ・実践的なデザイン制作を行う			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	MACPC、Adobeソフト、プリンター、その他			
授業外学習の方法	・作品のデータ管理とカテゴリ分けを実施する事			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	オリジナル作品集制作①	個別指導・添削(DTP中心)	
	2	オリジナル作品集制作②	個別指導・添削(DTP中心)	
	3	オリジナル作品集制作③	個別指導・添削(写真中心)	
	4	オリジナル作品集制作⑤	個別指導・添削(写真中心)	
	5	合同作品制作①	同学科、学年による共同制作を実施し、ポートフォリオに入れ込む	
	6	合同作品制作②	同学科、学年による共同制作を実施し、ポートフォリオに入れ込む	
	7	中間発表前のまとめ	個別指導・添削	
	8	中間発表	課題進捗確認、プレゼンテーション	
	9	オリジナル作品集制作⑤	個別指導・添削(WEB中心)	
	10	オリジナル作品集制作⑥	個別指導・添削(WEB中心)	
	11	オリジナル作品集制作⑦	個別指導・添削(WEB中心)	
	12	期末試験準備(オリジナル作品集制作⑧)	試験課題発表、課題制作	
	13	期末試験	課題提出、プレゼンテーション	
	14	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習Ⅱ	指導担当者名	岡部 美保
実務経験	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	アプリケーションのアドバンススキル習得 * 前期では サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す * 後期では サーティファイ photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	MACPC Photoshop®クイックマスターCC (Win/Mac) 対応		
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター 第2部 コンテンツ制作編 チャプター1 色調補正ツールの基本ワザ、食べ物の写真を補正する
	2	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター 第2部 コンテンツ制作編 チャプター1 色調補正ツールの基本ワザ、食べ物の写真を補正する
	3	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター 第2部 コンテンツ制作編 チャプター1 色調補正ツールの基本ワザ、食べ物の写真を補正する
	4	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター1 曇天の裏路地を夕暮れに変える、ロゴデザイン
	5	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター1 曇天の裏路地を夕暮れに変える、ロゴデザイン
	6	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター2 ログデザイン、カスタムシェイプとカスタムスタイルで制作、煤けたナンバープレートの制作
	7	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター2 ログデザイン、カスタムシェイプとカスタムスタイルで制作、煤けたナンバープレートの制作
	8	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 アクションで作るミニフォトカード、写真から作る立体ポップ、フィルターで作るブックカバー
	9	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 アクションで作るミニフォトカード、写真から作る立体ポップ、フィルターで作るブックカバー
	10	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 アクションで作るミニフォトカード、写真から作る立体ポップ、フィルターで作るブックカバー
	11	模擬問題	模擬問題の実践と解説
	12	模擬問題	模擬問題の実践と解説
	13	期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施
	14	前期振り返り	検定試験前の最終確認授業
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	デジタルソフト実習Ⅱ	指導担当者名	岡部 美保
実務経験	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	アプリケーションのアドバンススキル習得 * 前期では サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す * 後期では サーティファイ photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	MACPC Illustrator®クイックマスター CC (Win/Mac) 対応、Photoshop®クイックマスターCC (Win/Mac) 対応		
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター4 フォトコラージュ
	2	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター4 フォトコラージュ
	3	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン
	4	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン
	5	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン
	6	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン
	7	Photoshop検定対策(エキスパート)	1年次からの振り返り、基本操作編1 P10~59
	8	Photoshop検定対策(エキスパート)	1年次からの振り返り、基本操作編1 P60~119
	9	Photoshop検定対策(エキスパート)	2年次習得用語振り返り、P120~181
	10	Photoshop検定対策(エキスパート)	2年次習得用語振り返り、P182~246
	11	過去問題	一昨年前の過去問題の実施と解説
	12	過去問題	昨年度の過去問題の実施と解説
	13	期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施
	14	後期振り返り	検定試験前の最終確認授業
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	DTP概論Ⅱ		指導担当者名	石井 祐一
実務経験	印刷会社社長として現在も活躍中、16年間従事している			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・DTPについて基礎知識の習得 ・印刷技術の知識の習得 ・入稿データの知識の習得 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	新詳説 DTP基礎[改訂四版]			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	印刷工程	印刷の方法	
	2	印刷工程	コストについて	
	3	フォント	フォントの種類について	
	4	フォント	アウトライン作成について	
	5	画像	拡張子と画像のサイズについて	
	6	画像	入稿データ(埋め込み方法について)	
	7	カラー	CMYKとRGBについて	
	8	カラー	カラーマネジメントについて	
	9	保存形式	デザインソフトの入稿データ保存について	
	10	保存形式	PDFデータの保存方法について	
	11	制作実習	Illustratorで課題制作	
	12	制作実習	Illustratorで課題制作	
	13	前期期末試験	期末試験	
	14	前期振り返り	前期振り返り	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	DTP概論Ⅱ		指導担当者名	石井 祐一
実務経験	印刷会社社長として現在も活躍中、16年間従事している			実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・DTPについて基礎知識の習得 ・印刷製本の基礎と技術の習得 ・特殊加工の知識について習得 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	新詳説 DTP基礎[改訂四版]			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	印刷の種類	紙質の違いによる印刷	
	2	印刷の種類	紙以外への素材による印刷	
	3	製本の種類	並製本と上製本	
	4	製本の種類	面付けと折り加工	
	5	インクの種類	オフセット印刷と活版印刷のインクについて	
	6	インクの種類	グラビア印刷とシルクスクリーン印刷、その他特殊のインクについて	
	7	定型用紙の種類	塗工紙について	
	8	定型用紙の種類	非塗工紙について	
	9	特殊加工の種類	オフセット印刷、活版印刷、グラビア印刷について	
	10	特殊加工の種類	シルクスクリーン印刷、凸版印刷と箔押しについて	
	11	制作実習	Photoshopで課題制作	
	12	制作実習	Photoshopで課題制作	
	13	後期期末試験	期末試験	
	14	後期振り返り	後期振り返り	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習	指導担当者名	ごしま
実務経験	動画クリエイターとしてミュージックビデオを制作を5年超続けている。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、YouTubeクリエイター科 2年、動画・映像クリエイター科 1年</small>
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro		
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明
	3	映像について	コンセプトや制作意図について
	4	映像について	現在の流行、需要のリサーチ
	5	企画の基礎	マーケティング
	6	企画の基礎	ブランディング
	7	企画の基礎	企画書作成
	8	企画の基礎	企画書作成
	9	動画制作	動画撮影
	10	動画制作	動画撮影
	11	動画制作	動画撮影
	12	動画制作	動画撮影
	13	発表	プレゼンテーション
	14	まとめ	レポート作成
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習	指導担当者名	ごしま
実務経験	動画クリエイターとしてミュージックビデオを制作を5年超続けている。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、YouTuberクリエイター科 2年、動画・映像クリエイター科 1年</small>
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro		
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明
	3	映像について	コンセプトや制作意図について
	4	映像について	現在の流行、需要のリサーチ
	5	企画の基礎	マーケティング
	6	企画の基礎	ブランディング
	7	企画の基礎	企画書作成
	8	企画の基礎	企画書作成
	9	動画制作	動画撮影
	10	動画制作	動画撮影
	11	動画制作	動画撮影
	12	動画制作	動画撮影
	13	発表	プレゼンテーション
	14	まとめ	レポート作成
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究Ⅱ	指導担当者名	丸山 悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	デザイン業界の現状を理解し、求められているスキルをアピールするポートフォリオを制作する。また、企業連携課題に取り組み自身のアピール素材とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	PC、タブレット、プロジェクトペーパー		
授業外学習の方法	デザイン業界についてのリサーチをしておく		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	・制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D 大学校キャラクタープレゼン	国際A&D 大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D 大学校キャラクタープレゼン 大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つてキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼン インスタプロモーションについて	お得意へ提出可能なデザインにおいては、修正対応してもらい提出までにブラッシュアップを行う。インスタプロモーション・POPの考え方。制作を始めるに当たり必要な情報の落とし込み
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作(ハロウィン)	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラレを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究Ⅱ	指導担当者名	丸山 悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
単位数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	デザイン業界の現状を理解し、求められているスキルをアピールするポートフォリオを制作する。また、企業連携課題に取り組み自身のアピール素材とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	PC、タブレット、プロジェクトペーパー		
授業外学習の方法	デザイン業界についてのリサーチしておく		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	・制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D 大学校キャラクタープレゼン	国際A&D大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D大学校キャラクタープレゼン大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つてキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼンインスタプロモーションについて	お得意へ提出可能なデザインにおいては、修正対応してもらい提出までにブラッシュアップを行うインスタプロモーション・POPの考え方。制作を始めるに当たり必要な情報の落とし込み
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作(ハロウィン)	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラレを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画配信プランニング演習Ⅱ	指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	フリーの映像編集者として2年の経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、YouTuberクリエイター科 2年、動画・映像クリエイター科 1年</small>
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動における企画(プランニング)の重要性の理解 ・より柔軟な発想力の向上 ・企画力、プレゼン力の向上 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Machintosh PC		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で企画のリサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の種類の説明
	3	映像について	興味を持つきっかけ(サムネイル等)
	4	映像について	人間の集中力の持続と映像の関連性
	5	企画について	コンセプトや制作意図について
	6	企画について	設定したターゲットにあった規格の重要性
	7	企画について	現在の流行、需要のリサーチ(年齢、性別指定)
	8	企画について	自分と他人の価値観のギャップ
	9	企画について	現状の基本的な企画スタンス(既存+α or 新しいもの)
	10	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	11	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	12	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	13	前期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点			
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画配信プランニング演習Ⅱ	指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	フリーの映像編集者として2年の経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、YouTubeクリエイター科 2年、動画・映像クリエイター科 1年</small>
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動における企画(プランニング)の重要性の理解 ・より柔軟な発想力の向上 ・企画力、プレゼン力の向上 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Machintosh PC		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で企画のリサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	配信について	コメント、評価の重要性
	2	配信について	続けることの重要性
	3	Premiere proの使い方	データの作成方法と書き出し
	4	Premiere proの使い方	カット、文字入れ、音入れ
	5	Premiere proの使い方	機能の使用方法(フェード等)
	6	Premiere proの使い方	映像制作のコツを実技を通して説明
	7	Premiere proの使い方	映像制作のコツを実技を通して説明
	8	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	9	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	10	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	11	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	12	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	13	後期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	後期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ	指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習するし、視野を広げ見地高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する</p>		
使用教材	各担当による		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊	
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	56時間		週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習するし、視野を広げ見地高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する</p>				
使用教材	各担当による				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点					
<p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論Ⅱ	指導担当者名	丸山 悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザイン専修科、デザイン総合科、コミュニケーション科、デザイン専攻科、デザイン専攻科(夜間)、デザイン専攻科(夜間)</small>
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期1回・後期1回アンケートを実施し、疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしてサポート合格を目指していく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等		
授業外学習 の方法	授業内容の予習、復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、学習方法確認・3級振り返り・色彩動画観賞・次回準備
	2	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集、豆テスト・トーン別色相環制作・配色イメージと色彩調和
	3	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和
	4	確認テスト色彩調和・色のUD光と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和と色のUD
	5	確認テスト色のUD・光と色	教科書、問題集・豆テスト・色のUDと光と色
	6	確認テスト光と色・マンセル表色系	教科書、問題集・豆テスト・光と色とマンセル表色系
	7	確認テストマンセル・色彩心理・ビジュアル	教科書、問題集・豆テスト・マンセル表色系と色彩心理とビジュアル
	8	確認テストビジュアル・ファッション	教科書、問題集・豆テスト・ビジュアルとファッション・テキスト前半部確認テストインフォメーション
	9	テキスト確認テストファッション・インテリア	・テキスト前半部確認テスト実施・教科書、問題集ファッションとインテリア・期末テストインフォメーション
	10	確認テスト・インテリア・景観	教科書、問題集 インテリア・景観色彩
	11	確認テスト景観	教科書、問題集景観色彩
	12	テキストまとめ	・テキストまとめ・アンケート実施・夏休み中の宿題インフォメーション
	13	前期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施
	14	前期振り返り	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論Ⅱ	指導担当者名	丸山 悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	<small>グラフィックデザイン科、グラフィックデザイン専攻科、デザイン科、グラフィックデザイン科、グラフィックデザイン科、グラフィックデザイン科、グラフィックデザイン科、グラフィックデザイン科</small>
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期1回・後期1回アンケートを実施し、疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしてサポート合格を目指していく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等		
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	宿題回収・テキスト振り返り	・夏休み課題提出日・教科書、問題集・過去問各章ごと実施と振り返り
	2	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト実施と振り返り
	3	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト・実施と振り返り
	4	各章の過去問実施	教科書、問題集過去問各章テスト実施・進捗確認アンケート実施・次回インフォメーション
	5	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策勉強方法ポイント解説とテキスト振り返り
	6	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り
	7	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り
	8	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説
	9	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説
	10	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説
	11	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説
	12	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説
	13	後期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施
	14	後期振り返り	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習Ⅱ		指導担当者名	遠藤 孝行
実務経験	WEB制作会社社長として、5年以上の実務経験を持っている			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得 ・CSSの知識と技術の習得 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	WEBサイトの基本	WEBサイトの仕組み、テキストエディターの導入	
	2	HTMLの基本	HTMLとは、HTMLファイルの骨組み	
	3	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	4	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	5	HTMLの基本	基礎タグ演習	
	6	CSSの基本	CSSとは、CSSファイルの書き方	
	7	CSSの基本	文字の修飾	
	8	CSSの基本	要素、画像の装飾	
	9	CSSの基本	余白、レイアウトの調整	
	10	サイト制作:個人でのサイト構築	フルスクリーンWEBサイトを制作する	
	11	サイト制作:個人でのサイト構築	2カラムのWEBサイトを制作する	
	12	サイト制作:個人でのサイト構築	タイル型のWEBサイトを制作する	
	13	前期期末試験	プレゼンテーション	
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習Ⅱ		指導担当者名	遠藤 孝行
実務経験	WEB制作会社社長として、5年以上の実務経験を持っている			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得 ・CSSの知識と技術の習得 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Machintosh PC, HTML&CSSとWEBデザイン入門講座			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	外部メディアの利用	フォーム、地図の設置	
	2	外部メディアの利用	SNSの外部利用	
	3	JavaScriptの基本	JavaScriptとは、JavaScriptの書き方	
	4	JavaScriptの基本	モーダルの表示	
	5	JavaScriptの基本	条件分岐	
	6	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	7	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	8	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	9	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	10	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	11	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築	
	12	後期期末試験	制作発表	
	13	後期の振り返り	プレゼンテーション	
	14	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習Ⅱ		指導担当者名	遠藤 孝行	
実務経験	WEB制作会社社長 5年以上の実務経験を持っている			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	サーバー設定の理解	サーバーの仕組み		
	2	サーバー設定の理解	ドメインの仕組み、Wordpressのインストール方法		
	3	サーバー設定の理解	FTP接続、データベースの理解		
	4	CMSの理解	Wordpressのテーマ選定		
	5	CMSの理解	Wordpressのテーマ構造		
	6	ECサイトの理解	ECの構築		
	7	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築		
	8	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築		
	9	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築		
	10	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築		
	11	サーバー設定の理解	環境間の移行設定		
	12	制作発表	課題提出、プレゼンテーション		
	13	前期期末試験	プレゼンテーション		
	14	前期試験の振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習Ⅱ		指導担当者名	遠藤 孝行	
実務経験	WEB制作会社社長 5年以上の実務経験を持っている			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	商業サイト制作:コンセプトシート作成	指定されたカテゴリに基づき、サイト内容を決定		
	2	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成		
	3	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成		
	4	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成		
	5	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成		
	6	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成		
	7	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	8	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	9	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	10	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	11	制作発表	制作発表、プレゼンテーション		
	12	制作発表	制作発表、プレゼンテーション		
	13	後期制作課題の振り返り	プレゼンテーション		
	14	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	コマースシャルフォトⅡ	指導担当者名	阿部 治
実務経験	写真スタジオにて撮影業務に3年間従事し、現在フリー活動をしている		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真とカメラの基礎知識の習得 ・スタジオ(撮影機材とライティング)の基礎知識と操作技術の習得 ・広告写真を制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<p>テキスト: 作品づくりが上達する RAW現像読本 ～Lightroom CC/6で写真編集力アップ！</p> <p>撮影機材: 一眼レフカメラ、スポットライト、レフ版、三脚、露出計、レンズ各種、背景紙</p>		
授業外学習の方法	<p>広告や雑誌などを見て研究、自主的に撮影の練習をする、夏休みの課題撮影</p>		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	写真の基礎知識	写真とは何か 広告写真の解説
	2	写真の基礎知識	光とボケについて
	3	写真の基礎知識	カメラの設定について
	4	撮影機材の基礎知識	一眼レフカメラの使用方法について実践解説
	5	撮影機材の基礎知識	ライティングについて実践解説
	6	撮影機材の基礎知識	スタジオ撮影機材の使用方法について実践解説
	7	広告写真課題制作	企画・コンセプトの設定
	8	広告写真課題制作	テスト撮影
	9	制作課題の中間審査	プレゼン・添削
	10	広告写真課題制作	テスト撮影
	11	広告写真課題制作	本番撮影
	12	広告写真課題制作	本番撮影
	13	前期期末試験	制作課題のプレゼン
	14	前期期末試験の振り返り	制作課題の講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	コマーシャルフォトⅡ	指導担当者名	阿部 治
実務経験	写真スタジオにて撮影業務に3年間従事し、現在フリー活動をしている		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科写真コース 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真とカメラの基礎知識の習得 ・スタジオ(撮影機材とライティング)の基礎知識と操作技術の習得 ・広告写真を制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<p>テキスト: 作品づくりが上達する RAW現像読本 ～Lightroom CC/6で写真編集力アップ！</p> <p>撮影機材: 一眼レフカメラ、スポットライト、レフ版、三脚、露出計、レンズ各種、背景紙</p>		
授業外学習の方法	広告や雑誌などを見て研究、自主的に撮影の練習をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	夏休みの課題のプレゼン	プレゼン・添削
	2	広告写真課題制作	企画・コンセプトの設定(人物・物)
	3	広告写真課題制作	コンセプトに基づいたテスト撮影
	4	広告写真課題制作	構図のテスト撮影
	5	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	6	広告写真課題制作	本番撮影
	7	制作課題の中間審査	プレゼン・添削
	8	広告写真課題制作	コンセプトに基づいたテスト撮影
	9	広告写真課題制作	構図のテスト撮影
	10	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	11	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	12	広告写真課題制作	本番撮影
	13	前期期末試験	制作課題の提出
	14	前期期末試験の振り返り	制作課題の講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作Ⅱ	指導担当者名	丸山 悦代	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	グラフィックデザイン、グラフィックデザインマスター科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:	
時間数	180 時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科で学んだ内容を活かした作品制作 ・テーマを掲げ対象者を意識した作品制作 ・自らの作品をアピールするプレゼンテーションが出来る 			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で1年間の集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」 			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習 の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても可視化していく	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など	
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする	
	履修上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、プレゼンテーション機会を与えない ・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンテーションを実施そこで一定の評価があれば合格とする 			

授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論	指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	全学科2、3年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28 時間	週時間数	1週/28時間
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格		
評価方法 評価基準	・出席率・模擬試験点数評価・授業態度・試験結果 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト		
授業外学習 の方法	テキストの復習等		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション/第1章 著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的
	2	第2章 著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの
	3	第3章 著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者
	4	第4章 著作権の内容①	著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性)
	5	第4章 著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権
	6	第4章 著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物
	7	第5章 著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護
	8	第7章 勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物
	9	第7章 勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係
	10	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは
	11	第9章 勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害
	12	第10章 著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権
	13	検定対策	模擬試験
	14	期末試験	検定本番
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅲ		指導担当者名		就職担当職員	
実務経験				実務経験:		
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科3年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:		
時間数	28時間		週時間数	1時間		
学習到達目標	学生の進路にあわせた進路指導、就職活動指導(プロ希望、業界志望、その他企業志望) ・進路決定活動の状況に応じて問題解決が出来るようになる。 ・それぞれの希望進路に向けて準備から受験までを行う事が出来るようになる。 ・進路決定後はその職業で必要な知識と技術を身に付け、社会人としての準備を自ら出来るようになる。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材	パソコン 作品集 SUCCESS					
授業外学習の方法	教科書の復習					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等			
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業内容説明			
	2	色々な働き方	働き方の種類、社会保障制度などを理解			
	3	プロ・フリーランスの定義	会社に属さない働き方を理解			
	4	ポートフォリオの役割	実績集(ポートフォリオ)制作の目的			
	5	個別指導①	個人の状況に合わせて個別指導			
	6	受験書類・自己PR	自己分析と自己PR			
	7	個別指導②	個人の状況に合わせて個別指導			
	8	進路選択の順番	会社説明会やインターネットを使用した求人検索			
	9	プロ・フリーランスの働き方	収入を得る方法、準備			
	10	ポートフォリオ添削	最新ポートフォリオ			
	11	個別指導③	個人の状況に合わせて個別指導			
	12	受験書類・志望動機	企業研究と志望動機			
	13	個別指導④	個人の状況に合わせて個別指導			
	14	期末試験	進路活動のレポート			
	15	期末試験フィードバック				
	16	期末試験フィードバック				
作品制作 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅲ		指導担当者名		就職担当職員	
実務経験				実務経験:		
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科3年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:		
時間数	28時間		週時間数	1時間		
学習到達目標	学生の進路にあわせた進路指導、就職活動指導 (プロ希望、業界志望、その他企業志望)					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。					
使用教材	パソコン 作品集 SUCCESS					
授業外学習の方法	教科書の復習。ニュースを見る。					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等			
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業内容説明			
	2	進路サポート案内	就職活動支援、利用方法の理解			
	3	個別指導⑤	個人の状況に合わせて個別指導			
	4	プロ・フリーランスになってから	各種手続きなどの紹介			
	5	個別指導⑥	個人の状況に合わせて個別指導			
	6	ポートフォリオ添削	受かるポートフォリオ、落ちるポートフォリオ			
	7	個別指導⑦	個人の状況に合わせて個別指導			
	8	受験書類・メール	お礼状やビジネスメール			
	9	個別指導⑧	個人の状況に合わせて個別指導			
	10	個別指導⑨	個人の状況に合わせて個別指導			
	11	個別指導⑩	個人の状況に合わせて個別指導			
	12	社会人準備①	社会人になる前の準備物や手続き			
	13	社会人準備②	社会人になる前の心構え、ビジネスマナー口			
	14	期末試験	進路活動のレポート			
	15	期末試験フィードバック				
	16	期末試験フィードバック				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅲ	指導担当者名	丸山悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>前期のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動用のポートフォリオを完成 (希望する職種によって作り分けが出来るようになる) ・商品制作と販売の経験と知識を得る ・実践的なデザイン制作を行う 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	MACPC、Adobeソフト、プリンター、その他		
授業外学習の方法	・作品のデータ管理とカテゴリ分けを実施する事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	ポートフォリオ開設	ポートフォリオ制作のスケジュール説明
	2	就活先の合わせた作品制作①	個人面談、進捗状況確認
	3	就活先の合わせた作品制作②	個人面談、進捗状況確認
	4	就活先の合わせた作品制作③	個人面談、進捗状況確認
	5	就活用ポートフォリオ制作①	個別指導・添削
	6	就活用ポートフォリオ制作②	個別指導・添削
	7	就活用ポートフォリオ制作③	個別指導・添削
	8	就職活動用ポートフォリオ中間発表	課題進捗確認、プレゼンテーション
	9	就活用ポートフォリオ制作④	個別指導・添削
	10	就活用ポートフォリオ制作⑤	個別指導・添削
	11	就活用ポートフォリオ制作⑥	個別指導・添削
	12	期末試験準備(就活用ポートフォリオ制作⑦)	試験課題発表、課題制作
	13	期末試験(ポートフォリオプレゼン)	課題提出、プレゼンテーション
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	ポートフォリオ制作実習Ⅲ	指導担当者名	丸山悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	後期のポイント ・自身の作品アピールが出来るポートフォリオを完成 ・商品制作と販売の経験と知識を得る ・実践的なデザイン制作を行う		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	MACPC、Adobeソフト、プリンター、その他		
授業外学習の方法	・作品のデータ管理とカテゴリ分けを実施する事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリジナル作品集制作①	個別指導・添削(DTP中心)
	2	オリジナル作品集制作②	個別指導・添削(DTP中心)
	3	オリジナル作品集制作③	個別指導・添削(写真中心)
	4	オリジナル作品集制作⑤	個別指導・添削(写真中心)
	5	合同作品制作①	同学科、学年による共同制作を実施し、ポートフォリオに入れ込む
	6	合同作品制作②	同学科、学年による共同制作を実施し、ポートフォリオに入れ込む
	7	中間発表前のまとめ	個別指導・添削
	8	中間発表	課題進捗確認、プレゼンテーション
	9	オリジナル作品集制作⑤	個別指導・添削(WEB中心)
	10	オリジナル作品集制作⑥	個別指導・添削(WEB中心)
	11	オリジナル作品集制作⑦	個別指導・添削(WEB中心)
	12	期末試験準備(オリジナル作品集制作⑧)	試験課題発表、課題制作
	13	期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習Ⅲ	指導担当者名	岡部 美保
実務経験	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	アプリケーションのアドバンススキル習得 * 前期では サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す * 後期では サーティファイ photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	MACPC Photoshop®クイックマスター-CC (Win/Mac) 対応		
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター 第2部 コンテンツ制作編 チャプター1 色調補正ツールの基本ワザ、食べ物の写真を補正する
	2	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター 第2部 コンテンツ制作編 チャプター1 色調補正ツールの基本ワザ、食べ物の写真を補正する
	3	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター 第2部 コンテンツ制作編 チャプター1 色調補正ツールの基本ワザ、食べ物の写真を補正する
	4	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター1 曇天の裏路地を夕暮れに変える、ロゴデザイン
	5	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター1 曇天の裏路地を夕暮れに変える、ロゴデザイン
	6	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター2 ログデザイン、カスタムシェイプとカスタムスタイルで制作、煤けたナンバープレートの制作
	7	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター2 ログデザイン、カスタムシェイプとカスタムスタイルで制作、煤けたナンバープレートの制作
	8	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 アクションで作るミニフォトカード、写真から作る立体ポップ、フィルターで作るブックカバー
	9	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 アクションで作るミニフォトカード、写真から作る立体ポップ、フィルターで作るブックカバー
	10	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 アクションで作るミニフォトカード、写真から作る立体ポップ、フィルターで作るブックカバー
	11	模擬問題	模擬問題の実践と解説
	12	模擬問題	模擬問題の実践と解説
	13	期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施
	14	前期振り返り	検定試験前の最終確認授業
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	デジタルソフト実習Ⅲ		指導担当者名	岡部 美保	
実務経験	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	アプリケーションのアドバンススキル習得 * 前期では サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す * 後期では サーティファイ photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	MACPC Illustrator®クイックマスター CC (Win/Mac) 対応、Photoshop®クイックマスターCC (Win/Mac) 対応				
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター4 フォトコラージュ		
	2	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター4 フォトコラージュ		
	3	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン		
	4	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン		
	5	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン		
	6	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン		
	7	Photoshop検定対策(エキスパート)	1年次からの振り返り、基本操作編1 P10~59		
	8	Photoshop検定対策(エキスパート)	1年次からの振り返り、基本操作編1 P60~119		
	9	Photoshop検定対策(エキスパート)	2年次習得用語振り返り、P120~181		
	10	Photoshop検定対策(エキスパート)	2年次習得用語振り返り、P182~246		
	11	過去問題	一昨年前の過去問題の実施と解説		
	12	過去問題	昨年度の過去問題の実施と解説		
	13	期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施		
	14	後期振り返り	検定試験前の最終確認授業		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習Ⅱ		指導担当者名	ごしま
実務経験	動画クリエイターとしてミュージックビデオを制作を5年超続けている。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明	
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明	
	3	映像について	コンセプトや制作意図について	
	4	映像について	現在の流行、需要のリサーチ	
	5	企画の基礎	マーケティング	
	6	企画の基礎	ブランディング	
	7	企画の基礎	企画書作成	
	8	企画の基礎	企画書作成	
	9	動画制作	動画撮影	
	10	動画制作	動画撮影	
	11	動画制作	動画撮影	
	12	動画制作	動画撮影	
	13	発表	プレゼンテーション	
	14	まとめ	レポート作成	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習Ⅱ		指導担当者名	ごしま
実務経験	動画クリエイターとしてミュージックビデオを制作を5年超続けている。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明	
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明	
	3	映像について	コンセプトや制作意図について	
	4	映像について	現在の流行、需要のリサーチ	
	5	企画の基礎	マーケティング	
	6	企画の基礎	ブランディング	
	7	企画の基礎	企画書作成	
	8	企画の基礎	企画書作成	
	9	動画制作	動画撮影	
	10	動画制作	動画撮影	
	11	動画制作	動画撮影	
	12	動画制作	動画撮影	
	13	発表	プレゼンテーション	
	14	まとめ	レポート作成	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究Ⅲ	指導担当者名	丸山 悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	デザイン業界の現状を理解し、求められているスキルをアピールするポートフォリオを制作する。また、企業連携課題に取り組み自身のアピール素材とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	PC、タブレット、プロジェクトペーパー		
授業外学習の方法	デザイン業界についてのリサーチしておく		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	・制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D大学校キャラクタープレゼン	国際A&D大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D大学校キャラクタープレゼン大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つてキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼンインスタプロモーションについて	お得意へ提出可能なデザインにおいては、修正対応してもらい提出までにブラッシュアップを行う。 インスタプロモーション・POPの考え方。制作を始めるに当たり必要な情報の落とし込み
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作(ハロウィン)	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラレを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究Ⅲ	指導担当者名	丸山 悦代
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
単位数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	デザイン業界の現状を理解し、求められているスキルをアピールするポートフォリオを制作する。また、企業連携課題に取り組み自身のアピール素材とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	PC、タブレット、プロジェクトペーパー		
授業外学習の方法	デザイン業界についてのリサーチをしておく		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	・制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D大学校キャラクタープレゼン	国際A&D大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D大学校キャラクタープレゼン大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つてキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼンインスタプロモーションについて	お得意へ提出可能なデザインにおいては、修正対応してもらい提出までにブラッシュアップを行う インスタプロモーション・POPの考え方。制作を始めるに当たり必要な情報の落とし込み
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作(ハロウィン)	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラレを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画配信プランニング演習Ⅲ	指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	フリーの映像編集者として2年の経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動における企画(プランニング)の重要性の理解 ・より柔軟な発想力の向上 ・企画力、プレゼン力の向上 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Machintosh PC		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で企画のリサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の種類の説明
	3	映像について	興味を持つきっかけ(サムネイル等)
	4	映像について	人間の集中力の持続と映像の関連性
	5	企画について	コンセプトや制作意図について
	6	企画について	設定したターゲットにあった規格の重要性
	7	企画について	現在の流行、需要のリサーチ(年齢、性別指定)
	8	企画について	自分と他人の価値観のギャップ
	9	企画について	現状の基本的な企画スタンス(既存+α or 新しいもの)
	10	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	11	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	12	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	13	前期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点			
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画配信プランニング演習Ⅲ		指導担当者名	青木 龍太郎	
実務経験	フリーの映像編集者として2年の経験がある。			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザインマスター科 3年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
時間数	28時間		週時間数	1時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動における企画(プランニング)の重要性の理解 ・より柔軟な発想力の向上 ・企画力、プレゼン力の向上 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	Machintosh PC				
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で企画のリサーチ				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	配信について	コメント、評価の重要性		
	2	配信について	続けることの重要性		
	3	Premiere proの使い方	データの作成方法と書き出し		
	4	Premiere proの使い方	カット、文字入れ、音入れ		
	5	Premiere proの使い方	機能の使用方法(フェード等)		
	6	Premiere proの使い方	映像制作のコツを実技を通して説明		
	7	Premiere proの使い方	映像制作のコツを実技を通して説明		
	8	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削		
	9	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削		
	10	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削		
	11	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削		
	12	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削		
	13	後期期末試験	課題提出、プレゼンテーション		
	14	後期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅢ	指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科3年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習するし、視野を広げ見地高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する</p>		
使用教材	各担当による		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅢ		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊	
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科3年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	56時間		週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習するし、視野を広げ見地高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する</p>				
使用教材	各担当による				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習		指導担当者名	パクスフン
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年、グラフィックデザインマスター科3年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	実習を通して動画の撮影・編集を学び、さらに配信の現場を自分たちで作れるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	パソコン カメラ ATEM			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	動画とは	動画の画角等	
	2	動画を作ってみよう	premiere proを使用した動画制作	
	3	動画を作ってみる2	premiere proを使用動画の書き出し方法	
	4	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。	
	5	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。	
	6	配信	youtubeの設定と配信	
	7	配信	配信に必要なブロック図と配線の書き方	
	8	配信イベント	配信イベント行ってみる	
	9	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	10	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	11	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	12	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	13	動画の配信	製作した動画の配信	
	14	後期期末	配信実技によるテスト	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習	指導担当者名	パクスフン
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年、グラフィックデザインマスター科3年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間
学習到達目標	実習を通して動画の撮影・編集を学び、さらに配信の現場を自分たちで作れるようになる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	パソコン カメラ ATEM		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	前期振り返り	
	2	配信のためのプランニング	配信時間を考える
	3	タイムコード	音声と映像を合わせる
	4	配信企画	配信の企画を立てる
	5	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる
	6	良い音で配信するためには？	配信での良い音する方法
	7	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信
	8	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信
	9	音楽以外の配信プラン	演劇での配信
	10	校内ライブで配信するたのプラン	配信プランを立ててみる
	11	校内ライブで配信するたのプラン	実際に配信を試してみる
	12	校内ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信を試してみる
	13	ライブストリーミング実施	プランに沿っての機材設置と配信
	14	期末テスト	配信までの流れを再現
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習Ⅲ		指導担当者名	遠藤 孝行	
実務経験	WEB制作会社社長として、5年以上の実務経験を持っている			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザインマスター科写真コース 3年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得 ・CSSの知識と技術の習得 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	Machintosh PC, HTML&CSSとWEBデザイン入門講座				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	WEBサイトの基本	WEBサイトの仕組み、テキストエディターの導入		
	2	HTMLの基本	HTMLとは、HTMLファイルの骨組み		
	3	HTMLの基本	基礎タグ演習		
	4	HTMLの基本	基礎タグ演習		
	5	HTMLの基本	基礎タグ演習		
	6	CSSの基本	CSSとは、CSSファイルの書き方		
	7	CSSの基本	文字の修飾		
	8	CSSの基本	要素、画像の装飾		
	9	CSSの基本	余白、レイアウトの調整		
	10	サイト制作:個人でのサイト構築	フルスクリーンWEBサイトを制作する		
	11	サイト制作:個人でのサイト構築	2カラムのWEBサイトを制作する		
	12	サイト制作:個人でのサイト構築	タイル型のWEBサイトを制作する		
	13	前期期末試験	プレゼンテーション		
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	HTML/CSS演習Ⅲ		指導担当者名	遠藤 孝行	
実務経験	WEB制作会社社長として、5年以上の実務経験を持っている			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザインマスター科写真コース 3年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・HTML、基礎コードの理解と応用の習得 ・CSSの知識と技術の習得 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	Machintosh PC, HTML&CSSとWEBデザイン入門講座				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	外部メディアの利用	フォーム、地図の設置		
	2	外部メディアの利用	SNSの外部利用		
	3	JavaScriptの基本	JavaScriptとは、JavaScriptの書き方		
	4	JavaScriptの基本	モーダルの表示		
	5	JavaScriptの基本	条件分岐		
	6	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	7	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	8	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	9	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	10	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	11	自主サイト制作	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	12	後期期末試験	制作発表		
	13	後期の振り返り	プレゼンテーション		
	14	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習Ⅲ		指導担当者名	遠藤 孝行	
実務経験	WEB制作会社社長 5年以上の実務経験を持っている			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザインマスター科写真コース 3年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	サーバー設定の理解	サーバーの仕組み		
	2	サーバー設定の理解	ドメインの仕組み、Wordpressのインストール方法		
	3	サーバー設定の理解	FTP接続、データベースの理解		
	4	CMSの理解	Wordpressのテーマ選定		
	5	CMSの理解	Wordpressのテーマ構造		
	6	ECサイトの理解	ECの構築		
	7	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築		
	8	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築		
	9	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築		
	10	CMSを用いて自主サイト制作	サイト内容に基づき、WEBサイト構築		
	11	サーバー設定の理解	環境間の移行設定		
	12	制作発表	課題提出、プレゼンテーション		
	13	前期期末試験	プレゼンテーション		
	14	前期試験の振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	WEBデザイン実習Ⅲ		指導担当者名	遠藤 孝行	
実務経験	WEB制作会社社長 5年以上の実務経験を持っている			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザインマスター科写真コース 3年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	近年メインとされるWEBレイアウトサイトの構造理解 CSSやJavascript等を用いて、商業サイトの制作を完成させる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Machintosh PC、HTML&CSSとWEBデザイン入門講座				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	商業サイト制作:コンセプトシート作成	指定されたカテゴリに基づき、サイト内容を決定		
	2	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成		
	3	商業サイト制作:コンセプトシート作成	サイト内容に基づくワイヤーフレームを作成		
	4	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成		
	5	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成		
	6	商業サイト制作:素材収集・作成	サイト内容に基づく素材を収集・作成		
	7	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	8	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	9	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	10	商業サイト制作:サイト構築	サイト内容に基づき、ソースコード構築		
	11	制作発表	制作発表、プレゼンテーション		
	12	制作発表	制作発表、プレゼンテーション		
	13	後期制作課題の振り返り	プレゼンテーション		
	14	年間の講評	課題とプレゼンテーションについて講評		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	コマーシャルフォトⅢ		指導担当者名	阿部 治	
実務経験	写真スタジオにて撮影業務に3年間従事し、現在フリー活動をしている			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	グラフィックデザインマスター科写真コース 3年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真とカメラの基礎知識の習得 ・スタジオ(撮影機材とライティング)の基礎知識と操作技術の習得 ・広告写真を制作する 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	<p>テキスト: 作品づくりが上達する RAW現像読本 ～Lightroom CC/6で写真編集力アップ！</p> <p>撮影機材: 一眼レフカメラ、スポットライト、レフ版、三脚、露出計、レンズ各種、背景紙</p>				
授業外学習の方法	<p>広告や雑誌などを見て研究、自主的に撮影の練習をする、夏休みの課題撮影</p>				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	写真の基礎知識	写真とは何か 広告写真の解説		
	2	写真の基礎知識	光とボケについて		
	3	写真の基礎知識	カメラの設定について		
	4	撮影機材の基礎知識	一眼レフカメラの使用方法について実践解説		
	5	撮影機材の基礎知識	ライティングについて実践解説		
	6	撮影機材の基礎知識	スタジオ撮影機材の使用方法について実践解説		
	7	広告写真課題制作	企画・コンセプトの設定		
	8	広告写真課題制作	テスト撮影		
	9	制作課題の中間審査	プレゼン・添削		
	10	広告写真課題制作	テスト撮影		
	11	広告写真課題制作	本番撮影		
	12	広告写真課題制作	本番撮影		
	13	前期期末試験	制作課題のプレゼン		
	14	前期期末試験の振り返り	制作課題の講評		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	コマースシャルフォトⅢ	指導担当者名	阿部 治
実務経験	写真スタジオにて撮影業務に3年間従事し、現在フリー活動をしている		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザインマスター科写真コース 3年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真とカメラの基礎知識の習得 ・スタジオ(撮影機材とライティング)の基礎知識と操作技術の習得 ・広告写真を制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<p>テキスト: 作品づくりが上達する RAW現像読本 ～Lightroom CC/6で写真編集力アップ！</p> <p>撮影機材: 一眼レフカメラ、スポットライト、レフ版、三脚、露出計、レンズ各種、背景紙</p>		
授業外学習の方法	<p>広告や雑誌などを見て研究、自主的に撮影の練習をする</p>		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	夏休みの課題のプレゼン	プレゼン・添削
	2	広告写真課題制作	企画・コンセプトの設定(人物・物)
	3	広告写真課題制作	コンセプトに基づいたテスト撮影
	4	広告写真課題制作	構図のテスト撮影
	5	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	6	広告写真課題制作	本番撮影
	7	制作課題の中間審査	プレゼン・添削
	8	広告写真課題制作	コンセプトに基づいたテスト撮影
	9	広告写真課題制作	構図のテスト撮影
	10	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	11	広告写真課題制作	ライティングのテスト撮影
	12	広告写真課題制作	本番撮影
	13	前期期末試験	制作課題の提出
	14	前期期末試験の振り返り	制作課題の講評
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	丸山 悦代	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 卒業年次生	
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:	
時間数	180時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	・卒業生:2年間の集大成として学んだことを発揮する			
評価方法 評価基準	・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で卒業生としての集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習 の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム (週)	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても 可視化していく	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など	
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする	
	履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、プレゼンテーション機会を与えない ・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンテーションを実施、そこで一定の評価があれば合格とする			